

㊦ 身近な自然を楽しむ 冬は花が乏しくさびしい; そうでしょうか?

Enjoy the surrounding nature: Winter flowers are few and it's lonely; is that so?

1/31/2024 吉野輝雄

今年 2024 年の東京の初雪は 1/13 であった。その 2 日後の朝、東空は朝焼けが美しく、明けの明星(金星)がはっきりと見えた。日の出は 6:53am で最も遅く、ラジオ体操は薄暗い中で行なっていた。これが芦花公園の冬景色である。1 月下旬、気温は氷点下を記録、花の丘には 7cm 余の霜柱ができた。

こんな真冬に花を咲かせる草木は乏しく寂しい、と思い込んでいる人がいませんか? 本当にそうか、近隣の自然に目を向けて確かめて見よう。

その名も可憐な松雪草(スノードロップ)の花が 1 月初旬に咲いていた(例年は 2 月末)。木々が丸々葉を落とした 1 月半ば、冬期の芦花公園の紅梅が一斉に花を開いた。周辺の家々の庭では、寒気の中で白梅が紅梅を追うように花を咲かせた。冬至から 1 ヶ月余り過ぎた今、暗く寒い冬の空気がやっと遠退きつつあるように感じる。

一方、毎年 1 月に入ると園内各所に口ウバイ(蠟梅)が咲き始める。顔を近づけると甘い芳香が伝わってくる。大部分は薄黄色の素心蠟梅だが、濃い黄色の福寿蠟梅にも出会う。梅の名がついているが、実は梅の仲間ではない(口ウバイ科)、熟した梅と違って巾着袋形の蠟梅の実は無毒だ。

他方、園内には季節外れの花が 2 種あった。一つは十月桜; その名の通り 10 月に咲く珍しい桜(小彼岸桜と大島桜の交配種)だ。数週間で花は咲き終え、3 月に 2 度目の花を咲かせる。ところが今年は 10 月以後ずっと咲き続けている(しかも満開の様相だ)。もう一つは、10 月に咲き終えた銀木犀(ギンモクセイ)。1 月に再度花を付けた。特有の香も変わらなかった。園外でも観察されたと聞く。狂い咲き? 異常気候が原因?

次は 4 種の冬咲き水仙; 清楚な白と黄色の多様な副花冠が特徴だ。ペーパーホワイトとアリエルはどちらも手裏剣のような形の花弁だが、アリエルの花冠は白い。日本スイセンは、冬の寒風を受ける越前海岸や伊豆の爪木崎海岸に群生している。爪木崎は、53 年前の 1 月に私ども夫婦が新婚旅行で訪れた場所で、日本水仙の花が咲きそろうていたのを覚えている。八重咲き日本水仙は変異種で、注意していると見かける。水仙には、色形が異なる各種のラッパ水仙はじめ多様な種類が欧州、地中海沿岸、中国に分布しており、春を彩る花として世界中に水仙ファンがいる。

例えば、ドイツでは <http://sengawacx.com/alster10.html>

霜や雪が地面を覆う 1 月の寒中에서도花を咲かせている近隣の花を 4 例挙げる。三色スミレ(パンジー)ほど霜に強い花を私は知らない。芦花公園の花の丘には、毎年 11 月頃にパンジーの花壇が造られ、花は春まで萎れることなく咲き続ける。ヒイラギナンテン(柊南天)の黄色の花が、例年よりも早い 1 月下旬に咲いた。ボケ(木瓜)の花も寒中に咲き、夏に固く大きな実で成長する。ハボタン(葉牡丹)は花ではない。キャベツに似た葉を広げている姿が牡丹の花のように美しいので、鑑賞用に家の庭先で育てている人がいる。真冬の 1 月もユニークな花が咲きそろう、爛漫の時であった。